

【数字を読み解く】 「プラス 6.4%」

～2023年10月の大分県における乗用車新車登録台数の前年比伸び率～
<2023/11/17 大分合同新聞掲載>

数字は、10月の大分県における乗用車新車登録台数の前年比伸び率だ。

本統計は、自動車の新車登録台数を月次で公表しているものであり、乗用車のうち普通・小型自動車は日本自動車販売協会連合会が、軽自動車は全国軽自動車協会連合会が、それぞれ取りまとめている。なお、自動車が販売された時点ではなく、新車登録された時点で統計に計上されるため、自動車ディーラーなど販売店サイドの受注動向とは必ずしも一致しない（受注から納車≒新車登録までには、相応のタイムラグがある）点には留意が必要である。

大分県における10月の乗用車新車登録台数は、前年比プラス6.4%と2022年9月から14か月連続で前年を上回った。内訳を見ると、小型車（同マイナス13%）は前年を下回ったものの、普通車（同プラス27.4%）と軽自動車（同プラス3.4%）は前年を上回った。

これまでの振り返ると、大分県の乗用車新車登録台数は、21年6月から15か月連続で前年比マイナスであった。コロナの影響により半導体や部品の調達が困難になり、自動車メーカーが減産を余儀なくされた結果、顧客が発注してから納車されるまでに長い期間を要したことが原因だ。もっとも、昨年の秋口以降は半導体や部品の供給制約が緩和に向かう中、自動車メーカーが生産水準を徐々に引き上げてきており、新車登録台数も回復している。

先行きについても、これまでの納車遅れによって自動車ディーラーが高水準の受注残を抱えていることから、新車登録台数の回復基調が続く見通しである。自動車販売の動向は、家計の支出行動のみならず、裾野の広い自動車関連産業の生産状況も反映しているため、今後も動向を注視していきたい。（日本銀行大分支店）。